

久喜市議会
令和2年2月定例会
議員提出議案

議 案 目 録

意見第 1 号	気候危機を止めるために、地球温暖化対策のいっそうの推進を求める 意見書……………	1
意見第 2 号	内閣総理大臣主催「桜を見る会」疑惑の徹底究明を求める意見書…	3

意見第1号

気候危機を止めるために、地球温暖化対策のいっそうの推進を求める意見書

標記の議案を次のとおり久喜市議会会議規則第14条の規定により提出します。

2020年3月4日

提出者 久喜市議会議員
猪股和雄
賛成者 久喜市議会議員
岡崎克巳
渡辺昌代
田中勝
田村栄子

久喜市議会議長 上條哲弘 様

気候危機を止めるために、地球温暖化対策のいっそうの推進を求める意見書

近年、経験したことのない規模の自然災害が毎年のように発生し、気候変動・気候危機は現実のものとして多くの国民に実感されています。その大きな原因の一つとして、「地球温暖化」がこのまま進行していけば、異常気象や水不足、農業生産の大幅減少など、人類の生存をも脅かす様々な問題が発生すると指摘されています。

2018年の国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第48回総会において、「1.5℃目標に関する特別報告書」が発表され、そこでは産業革命以前からの気温上昇を1.5℃以下に抑えることが、地球環境を持続可能なものとするために必要であるとされました。そして気温上昇を1.5℃以下に抑えるためには、2050年ごろまでに二酸化炭素排出量を「正味（実質）ゼロ」にする必要があることが示されました。

日本政府は2008年洞爺湖サミットで2050年までの二酸化炭素60～80%削減の目標を掲げ、2015年には、2030年度の二酸化炭素排出を2013年度比で26%削減するという目標を公表しました。しかし「IPCC1.5℃目標」を達成するためには、この取り組みをさらに強化し、日本における二酸化炭素排出量の「正味（実質）ゼロ」を大幅に前倒しして達成をめざすことが求められています。すでに自治体レベルでは、東京都、京都市、横浜市など53自治体（2020年1月31日現在）が2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことを宣言しています。

よって、国会および政府に対し、次世代に持続可能な地球環境を残すために、省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの最大限の活用を進めるとともに、温室効果ガス削減目標のいっそうの上積みと促進をはかるなど、地球温暖化対策の推進を強く求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

久喜市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
経済産業大臣
環境大臣

あて

意見第2号

内閣総理大臣主催「桜を見る会」疑惑の徹底究明を求める意見書

標記の議案を次のとおり久喜市議会会議規則第14条の規定により提出します。

2020年3月4日

提出者 久喜市議会議員
杉野 修
平間 益美
賛成者 久喜市議会議員
川辺 美信

久喜市議会議長 上條 哲弘 様

内閣総理大臣主催「桜を見る会」疑惑の徹底究明を求める意見書

桜を見る会は、内閣総理大臣が各界において功績、功労のあった方々を招き、日頃のご苦勞を慰勞するとともに、親しく懇談する内閣の公的行事として開催しているものであり、その費用は税金から賄われている。

国会での質疑や、新聞報道によると、功績や功労の有無にかかわらず安倍晋三後援会関係者が多数招待されていること、反社会的勢力とされる者の参加もあったこと。また、桜を見る会の前日に安倍晋三後援会主催の都内観光ツアーや、桜を見る会前夜祭など公的行事と一体化した後援会行事が行われていること、そして、この前夜祭は、後援会主催であるにも拘わらず、その収支が政治資金収支報告書に記載されていないなど、公的行事の私物化や、政治資金規正法違反などの疑念が持たれている。しかし、政府は国民に対し、未だ十分な説明を行ったとは言い難い状況である。

よって、内閣総理大臣主催の桜を見る会にかかわる疑惑を究明し、国民に対し説明責任を果たすよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

久喜市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
内閣官房長官

あて